



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2016とは？

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、3年目を迎えました。



連続講座レポート 第5回 玉川上水と神田川～武蔵野台地の水事情を探る

日を追うごとに気温が下がりはじめ、冬が近づいていることを感じられた11/19、武蔵野台地の地形に詳しい「やとじい」こと、平田英二さんを講師に迎え、水の学校第5回講座を行いました。講座は、井の頭公園から西久保コミュニティセンターまで、神田川と玉川上水沿いを中心に、平田講師の解説を聞きながらまちあるきを行い、西久保コミュニティセンターでは平田講師から武蔵野台地を流れる川と上水の歴史や成り立ちについてのお話を聞き、最後にそれぞれの受講生が感じたことや気が付いたことを共有しつつ「武蔵野市内の水流れと、市民にできることを考える」というテーマでワークショップを行いました。



井の頭池とかいぼり ※1

井の頭池では、井の頭恩賜公園が2017年度に開園100周年を迎えることに合わせ、2013、15、17年度と3回にわたりかいぼりを実施する計画があり、現在までに2回のかいぼりが行われています。かいぼりを行ったことで、池底に日光があたり埋土種子※2から水草が発芽したり、捕食者となる外来魚を捕獲することで、モツゴ、エビ類などの在来種が増加していることが報告されています。2015年度のかいぼりに合わせ、水の学校サポーターの有志で池底を歩くツアーに参加しました。皆さんも2017年度のかいぼりの際は、井の頭池を訪れてみてはいかがでしょうか。



サポーター活動で参加した「池底ツアー」にて（2016年3月5日）

※1 かいぼり：ため池の機能を維持するために、水を抜き、魚を捕獲したり、護岸の補修等を行う管理作業の一つ。近年では、都市部の公園池などで、水質改善や生態系の回復を目指して行われる例が増えている。

※2 埋土種子：土の中で発芽せずに、ある期間保持されている種子群。

ワークショップで雨水とのかかわり方を考える

まとめのワークショップでは、講座で感じたことや気になったことを共有し、その後「雨水で困ることとその解決策」というテーマで意見を出し合いました。一部以下のとおり紹介します。

- ・地域の小さなポケット公園に雨上がりの水たまりを楽しみむささやかにほ地をデザインしてつくる
- ・コミセンにししおどしや水琴窟をしつらえた小さな庭をつけた和室をつかって、俳句の会や茶室などの大人の水を楽しむ空間を！
- ・ゲリラ豪雨によりマンション内の雨水枡がオーバーフローし、建物内に溢れる被害があった。
- ・雨水で困ることは生活環境に特にない
- ・市民は水に関する問題を知らない



受講生の声より

- 雨水を好意的に利用する考えに感銘しました。
- 水の道が生活と深く関わって歴史が作られて今に繋がっている事を地形から知ることができて勉強になりました。
- 玉川上水、神田川とも子供の頃の思い出が多く、玉川に飛び込んで泳いだ事など体験をなつかしく一日を過ごしました。
- 山から流れてくると思っていました。今日の復習で個人的に公園を散策したいと思いました。

水コラム no.19: 神田「上水」と玉川上水～川と上水はどう違う？

今回で紹介した 2016 年度第 5 回講座では、神田川と玉川上水沿いを中心に散策し、平田講師から興味深いお話をいただきました。たとえば、神田「川」というのが私たちにはお馴染みの名称ですが、かつては神田「上水」と呼ばれていたそうです。「川」と「上水」、皆さんは違いをご存知ですか？

玉川上水は、江戸市中へ飲料水を供給するために作られました。多摩川の豊富な水が水源となっており、羽村から四谷まで 43km の全流路が台地上を人工的に掘削してつくられました。「用水（上水）は背を引く」と言われるとおり、比較的標高の高い位置を流れ、汚れた水が流れ込みにくく、分水がしやすいという特徴がありました。

一方の神田川ですが、実は神田「上水」と呼ばれていた時代もあったのです。かつての神田川は、小石川橋～日比谷入江に注いでいた独立河川で、「平川」などと呼ばれていました。当初の「神田上水」は、徳川家康の江戸入り当初につくられ、本郷台地の小さな谷の湧水を水源としていましたが、人口増加に伴い、江戸の飲料水を確保するために平川を改修し、井の頭池と善福寺池、妙正寺池を水源とする神田上水を整備したのです。このような成り立ちのため、神田上水は上水でありながら比較的低い位置を流れており、汚れた水が流れ込まないよう厳重に管理されていたり、堰を設けなければ取水できないという特徴がありました。

つまり、「川」は自然の地形に沿った水の通り道で通常は標高の低い位置を流れているのに対し、「上水」は飲料水を確保するための人工の水路としてつくられたことから比較的標高の高い位置を流れているのです。



オープン講座&イベント レポート 10/23 (日) 「むさしの環境フェスタ」



秋晴れに恵まれ過ごしやすい 1 日となった 10/23 (日)、武蔵野プレイスと境南ふれあい広場公園にて環境フェスタが開催され、下水道課ブースでは、職員と水の学校サポーターが水環境を守る身近な方法を紹介しました。

サポーターのアイデアを生かしたクイズと実験には、小さなお子さんから大人まで 200 人を超える方が参加し、「残さず食べる」「家の周りの落ち葉を掃除する」「トイレトーパー以外トイレに流さない」といった小さな行動の積み重ねが大切ということを、楽しみながらご理解いただくことができました。

- 当日のプログラム (一部)
- ・実験「トイレトーパーとティッシュペーパーを水に溶かそう」
 - ・〇×クイズ「下水に流せる？ 流せない？」

サポーター活動報告

11/26 (土) 東京都水道歴史館と東大キャンパスの紅葉

御茶ノ水にある東京都水道歴史館では、ガイドの方にご説明いただきながら江戸時代の水を使った暮らしや玉川上水・現在に至るまでの水道の歴史を見学しました。その後、紅葉を楽しみながら周辺を散策し、かつては湧水だったと言われる三四郎池、不忍池を訪れました。

